（第８号様式　県教育委員会ホームページ掲載用）

「海外ホームステイ研修支援事業」実施報告書

福島県立福島南高等学校

実施期間・参加人数・滞在都市・現地交流校について

令和元年７月５日(金)～１８日(木)までの１４日間、２年生１７名が英国のグランサムにホームステイしながら、Kesteven & Grantham Girls' School（KGGS）と交流を行った。

実施概要について

① 本校生１７名と引率教諭２名が姉妹校 KGGS（Kesteven & Grantham Girls' School）を訪問し、授業・学校行事・校外学習に参加して現地の生徒や人々との交流を深め、学習を重ねた。

＊ Welcome Reception で挨拶をし、スポーツ大会では全員で「よさこい」の踊りを披露して福島の元気を表現した。

＊ グランサム市長を表敬訪問しグランサム市の歴史を学んだ。また、生徒代表が研修の抱負を述べるとともに福島の現状を伝えた。

＊ KGGS の教員によるエネルギーの授業を受け、現在の英国のエネルギー事情や再生可能エネルギーについて学んだ。

② KGGS の生徒宅にホームステイし、英国の生活や文化を学び、各家庭で福島についての情報発信をした。

③ 名所や旧跡を訪れ、英国の歴史や文化を学んだ。

福島の現状発信や現地におけるエネルギー学習について

① ホームステイ先において、福島の放射線量と農水産物や食品の安全性について英語で説明をした。福島を訪問したいという前向きなコメントをもらうことができた。

② KGGS の教員によるエネルギーの授業を受けた。エネルギーの基礎知識や化石燃料と原子力による発電について深く学んだ。また、今後の英国のエネルギー事情について意見交換をしながら情報収集をすることができた。

実施後の成果について

① 外国語学習に対する意欲が格段に上昇した。

② 世界史に対する興味関心が一層喚起された。

③ 地元福島の良さを再認識することができた。

④ エネルギー問題に対する意識が高まった。

寄付者へのメッセージ

このたびは、多大なるご支援を賜りまして深く感謝申し上げます。この姉妹校交流を通して、異文化に対する理解を深めるだけではなく、福島の復興と安全性についてアピールすることができました。お陰様で、震災後、滞っていた相互交流が近年、復活する見通しが立っております。

皆様のおかげで、有意義な研修ができましたことを改めて感謝申し上げます。

（第８号様式　県教育委員会ホームページ掲載用）

「海外ホームステイ研修支援事業」実施報告書

県立　安達　高等学校

実施期間・参加人数・滞在都市・現地交流校について

令和元年７月２９日（月）～８月８日（木）までの１１日間、１年生９名、２年生６名の１５名が、オーストラリアのナルーマに６日間ホームステイしながら、Narooma High School と交流を行った。その後はシドニーに滞在し、エネルギー学習などを行った。

実施概要について

〈語学研修〉

授業時間８：５０～１５：３０で３日間実施した。ナルーマ高校の教員による All English の授業で、語学だけでなく、オーストラリアや、アボリジニについての歴史、文化、生活についての授業も受講した。ものの考え方や価値観なども知ることができた。自然豊かな環境にある学校で、牧場訪問を通して農業国の一端に触れたり、伝統的な楽器演奏、現地食材を使った料理などの体験活動も交えながら、本校生はとても楽しく授業に参加していた。また、バディの授業にも一緒に参加させてもらい、さまざな授業を英語で体験することができた。現地生徒が、自分の意見をしっかり述べたり自由に発言したりする様子を見て、大変刺激になったようだ。

〈交流活動〉

８年生の生徒を対象に日本文化交流を行った。彼らにとって、初めての日本人との交流で、本校生の訪問を大変楽しみにしてくれていた。日本語の授業を受講している生徒や、今後日本訪問予定の生徒もおり、日本文化にも高い興味関心を示していた。

浴衣の着付け、書道、日本の伝統的な玩具での遊びなど、３つの班に分かれローテーションでそれぞれを体験してもらった。ジェスチャーを交えつつ英語で話をしたり、一緒に写真を撮りながら、両校の生徒ともとても楽しそうに笑顔で交流していた。

〈ホームステイ〉

現地校では、本校生１人にバディを１人つけてくれた。バディの自宅へホームステイすることができ、学校生活に加え、家庭でも交流することができ、より深い人間関係を築くことができた。最後にホームステイ先の全ての家族が集まり、お別れ会を開いてくれた。ナルーマ高校より自作の「修了証」を授与された生徒達は、満面の笑みであった。別れがつらく涙する生徒もおり、学校生活や、ホームステイ先での生活がとても充実していたことを物語っていた。

福島の現状発信や現地におけるエネルギー学習について

〈福島の現状発信〉

日本文化交流の前に、３つのテーマに分かれ、プレゼンテーションを行った。第１に、「福島の文化、観光」では、福島の魅力、豊かな自然や、食文化、観光地について紹介した。第２に「二本松市、安達高校」では、伝統的な祭りや、安達高校での生活や行事について紹介した。第３に「震災と復興」では、震災の被害や人々の生活、また復興の現状などを紹介した。どのテーマに対しても、現地生徒による質問が多く出て、関心の大きさがうかがえた。質問を聞き取り、返答するのに苦労しつつも、熱心に返答していた。本校生徒にとっても福島のことを再考する良い機会となった。

（第８号様式　県教育委員会ホームページ掲載用）

〈エネルギー学習〉

シドニーオリンピックパークにて、自然保護を念頭に入れた開発や、雨の少ないオーストラリアでの水の再利用について学習した。開発に伴って、一度失われた自然は簡単には元には戻らないことを学んだ。オリンピック施設の建設についても、ソーラーパネルの設置や、雨水や排水の徹底した再利用、人の動線を考えた交通インフラの整備など、自然との共存やエネルギー効率の高い施設設備を目指して行われたと知り、２０２０年の東京オリンピックにも重ねて様々なこと考えることができた。また、パーク内で失われた湿原を再生保護するために行っているさまざま活動や、現地児童生徒に対する教育活動についても知ることができた。水資源の大切さは、ホームステイ先でも実感したことなので、自分たちの生活が大変恵まれていると実感し、限りある資源を大切にしていかなくてはならないと発言する生徒もいた。

実施後の成果について

第１に、人間性の成長である。現地生徒などとの交流の中で、積極性が高まり、自分から声をかけて一緒に活動したり、自分の意見を発言する様子が見られ成長が感じられた。また文化の異なった様々な考え方、価値観に触れ、視野を広げることができた。フレンドリーで親切な人々にあたたかく迎えられ、人と人とのつながりの大切さも実感できた。

第２に、英語学習に対する意識の向上である。自分の言いたいことが言えず、もっと英語を使えたなら、もっとより良いコミュニケーションが図れたと実感していた。国際語としての英語の大切さを痛感し、目標を見つけ決意を新たにしていた。

この研修を通して経験した全てのことは、本校生の視野を広げ、成長につながる大変貴重なものであった。自分で選択すること、実際に行動すること、新しいことに挑戦することなどの大切さや、一歩踏み出せば、自分の知らない世界が限りなく広がっていることを実感した。英語だけでなく、様々な世界を学ぶことに対するモチベーションは間違いなく高まっている。また、たくさんの人の優しさに触れ、他人を思いやる心の大切さも実感した。今後の人生に良い影響を与えているに違いない。

寄付者へのメッセージ

この度は、全国の皆さまのご寄付により、大変有意義な体験をすることができました。たくさんの「初めて」に満ちた１１日間、１日１日が新鮮で、驚きと喜びにあふれた充実した時間を過ごすことができましたこと、深く感謝申し上げます。未来を担う彼らにとって、大変すばらしい刺激となり、それぞれの将来に大きな影響を与えていただいたと確信しております。また、福島や自分の今の生活を再考する良い機会にもなりました。今後もこのような企画が続き、多くの生徒にとって世界を知り、自分を知る良い機会になるよう、願っております。

（第８号様式　県教育委員会ホームページ掲載用）

令和元年度「海外ホームステイ研修支援事業」実施報告書

福島県立郡山高等学校

実施期間・参加人数・滞在都市・現地交流校について

令和元年７月２１日から８月３日までの１４日間、英語科１学年４０名がオーストラリアのブリスベンでホームステイ研修を行った。現地の規定により、公立の２つの高校に 20 名ずつに分かれての研修となった。

実施概要について

コリンダ SHS とパークリッジ SHS の２つの高校で、午前中は英会話クラスを受講し、昼休みから午後の時間をバディ（現地校世話役生徒）と過ごした。同じ年代のバディとはすぐに打ち解け、昼休みにはバスケットボールを楽しみ、午後のバディの授業に参加する場面では、英語や数学の時間は助けてもらいながら、美術や体育の授業は共に楽しい時間を過ごした。

また、地域の小学校、高齢者施設、大学などを訪問する機会があり、日本を紹介したり、現地の大学生の生活に触れたりして、多くの出会いを通して視野を広げることができた。

ホストファミリーは多民族国家らしくポリネシアン系、アジア系、アフリカ系、先住民であるアボリジニ系とバラエティ豊かで、どの家庭も温かく本校生を迎え入れてくれた。

福島の現状発信や現地におけるエネルギー学習について

【福島の現状発信について】

それぞれの学校、高齢者施設、ファミリーとのお別れパーティの ３ 回のプレゼンテーションの機会を与えられ、小学校低学年で経験した東日本大震災とこれまでの復興について、自分たちの言葉で伝えることができた。どの生徒も日本での準備段階では英語に自信を持てず、人前で話すことに不安があったが、辛抱強く優しく接してくれるバディやファミリーに福島の現状を伝えたい気持ちが強くなり、本番では堂々と心に響く発表をすることができた。発表の後は、それぞれのバディやファミリーからの質問に一生懸命に答える姿や、福島の話で盛り上がる様子が見られた。さらに、日本文化紹介、クイズ、歌、ダンス、折り紙なども準備していたので、発表の場所、持ち時間、観客の年代に合わせて内容を変えて、楽しみながら日本への理解を深めてもらうことができた。

【エネルギー学習について】

クイーンズランド工科大学で、ソーラーパワーについて大学生二人の講義を受け、さらに実際にソーラーパネルを使った実験を行った。冬でも雪が降らず、太陽が降り注ぐブリスベンでは、各家庭でソーラーパネルによる発電により消費電力を賄うことが可能である。ソーラーパネル発電に必要な条件について実験を行い、冬はパネルに雪が積もり、日照時間も短くなる福島の気候では、十分な発電ができないのではないかという疑問に辿り着いた。これに対し、雪が降るということは水があるということだから、水力発電ができるのではないかという大学生の提案があり、自然条件を生かしてエネルギーを生みだすことへの関心を高めることができた。

実施後の成果について

世界への視野が広がったこと、積極的な現地校の生徒との交流の中で考え方や態度に成長がみられたこと、英語の必要性を強く感じたことで学習への動機づけが強まったことが成果である。

オーストラリアは多くの移民を受け入れている多民族国家である。バディやファミリーは白人だけでなく、ポリネシアン系、アフリカ系、アジア系、そして先住民であるアボリジニ系とバラエティに富んでおり、それぞれの文化に誇りを持ちつつ、オーストラリアに溶け込んでいる。このような人々との出会いを通して、世界市民としての自分を意識するようになり、また日本への認識を新たにすることができた。

現地校のバディは自ら志願して本校生の友達になってくれた生徒ばかりだったので、特に思いやりがあり、根気強く本校生に英語で話しかけて本校生の心を開いてくれた。言葉を超えた心の交流を通して、控えめで積極性に欠ける生徒たちの態度が変化し、自分から一歩を踏みだす勇気を出せるようになった。

英語力については、想像していた以上に英語が伝わらず落ち込んだ生徒も多かったが、母語が英語でなくても現地で頑張っている高校生や大学生との出会いがあり、自分も頑張ろうという気持ちが高まった。

寄付者へのメッセージ

今回、援助をいただいたことで、クラス全員でホームステイ研修に参加することができました。この 2 週間、広い心と笑顔で、見ず知らずの私たちを迎え入れてくれたバディやファミリーと過ごすうちに、生徒達も前向きに積極的に、自分自身を受け入れられるようになりました。2 週間で劇的に英語力が向上するわけではありませんが、この 2 週間の出会いと経験は、さらなる挑戦への大きなきっかけであり、また挑戦への勇気を与えてくれるものであると確信しています。改めまして、ご支援いただきましたことに心より感謝申し上げます。どうもありがとうございました。

（第８号様式　県教育委員会ホームページ掲載用）

「海外ホームステイ研修支援事業」実施報告書

県立あさか開成高等学校

実施期間・参加人数・滞在都市・現地交流校について

令和元年７月 12 日（金）から７月 25 日（木）までの実施期間のうち、７月 13 日から７月 24 日早朝まで 1･2 年生 23 名がオーストラリアのブリスベン郊外でホームステイをしながら、Sheldon College にて研修を行い、現地の小・中・高校生と交流を行いました。

実施概要について

ブリスベン空港からホストスクールに到着後、ホストファミリーと対面し、最初の２日間を各家庭でそれぞれ過ごしました。１５日（月）より、Sheldon での学習が始まり、オリエンテーションで現地校担当者の挨拶と学校の規則やスクールモットー、キャンパス案内を受けました。モーニングティーでは現地校の生徒会の生徒たちと交流しながら、おやつやお弁当を楽しみました。授業はあさか開成の生徒のための授業と現地の生徒の授業に混ざって受けるものとがありました。数学や美術・ビジネス・体育・倫理・音楽等の学習がありましたが、どれも共通して「楽しむ」ことが大事であると強調されていました。授業への移動は、まず全員 SLC(Senior Learning Center)に集合し、２列に並んで各教室まで着くと、「数学４名！」「ダンス４名！」･･･などと言われたら、手を挙げた生徒から授業が決まり、分かれていきました。あさか開成生全員での英会話やダンス・ドラマの授業も、コミュニケーションや楽しむことに重点が置かれ、楽しんでいるうちに結果として学べるよう授業が工夫されていました。

１８日（木）の午前中に Geckoes Wildlife Incursion の授業があり、オーストラリアのトカゲやヘビほか、色々な生き物を先生が紹介し、直に触れる機会がありました。中には生き物の苦手な生徒もいて、少し遠くから恐る恐る見ている生徒もいました。

翌 19 日（金）は Sheldon から１名教員も付き、バスでゴールドコースト散策とムービーワールドへの遠足を楽しみました。

２度目の週末をホストファミリーと過ごし、22 日（月）は午前中ローンパインコアラサンクチュアリでオーストラリアの野生動物について学習したり、コアラを抱っこして写真を撮ったり、楽しく過ごしました。午後からはクイーンズランド大学を訪問し、GCI(Global Change Institute)で再生可能エネルギーについて学習しました。生徒はメモを取りながら熱心に話を聞き、たくさんの質問も出て、有意義な見学となりました。

２３日（火）の午後には修了証書の授与式とお世話になったホストファミリーやホストスクール関係者に感謝の気持ちを込めてさよならパーティーを行いました。限られた時間の中でよさこい・空手の型の実演、K-pop ダンス、日本の祭りを紹介して水ヨーヨーや輪投げを楽しんでもらいました。現地校担当者から変更に次ぐ変更があり、その都度生徒たちは制服からジャージへ、浴衣から制服へと早着替えをし、準備してきた出し物を精一杯紹介して生徒やホストファミリーに楽しんでもらうことができました。

福島の現状発信や現地におけるエネルギー学習について

７月１８日（木）に year6 の生徒２クラス 40 名を対象に、「あさか開成高校」「福島県について」「福島の震災からの復興」「再生可能エネルギー」「日本の文化」のテーマでグループごとに準備してきたプレゼンテーションを英語で行いました。クイズなども入れながら現地校の生徒とコミュニケーションしながら発表を行いました。

７月 22 日（月）に、クイーンズランド大学を訪問し、GCI(Global Change Institute)で再生可能エネルギーについて学習しました。まず Challenge of change in Building Design のビデオを見て GCI の建物の特徴について伺いました。太陽光発電や、建物のガラス張りの構造、吹き抜けの再生木材を利用した階段、緑の多い、まるでジャングルの中にいるかのような感覚を起こさせる建築の至る所に工夫がされており、1 年の中でエアコンを利用するのは平均で３ヶ月程度であるとのことでした。建物の素材のコンクリートは EFC(environmentally-friendly concrete)という火力発電の副産物から作られたもので通常の物より耐久性もあるとのことでした。夏のクイーンズランドは３６度ぐらいまで高温になり、キャタピラ状の窓が夜の間に開いたり、天井の水が温まった空気を冷やす働きをしているとのことでした。また、この建物は決して完璧ではなく、実験であるから、常に改良点を模索しているのだともおっしゃっていました。しかし、今オーストラリアでは原子力発電の利用についての議論も起きているということです。再生可能エネルギーの先進国であるオーストラリアでも、コストと産業界との問題はあるのだということに改めて気づかされました。生徒たちも関心深くしっかりメモを取りながら聞いていました。

実施後の成果について

はじめのうちは英語でのコミュニケーションに自信のなかった生徒も、数日後にはみんな慣れて、わからないことは辞書や身振り、その他いろいろな方法でやりとりできると実感したようです。また聴く力も向上しているようで、現地の先生やホストファミリーの話に相槌を打ったり、頷いたりとほぼ理解できていたようです。またそれぞれにホストファミリーと連絡方法を交換しあったり今後も交流を続けていく中で異文化理解を深めていけるのではと考えます。再生可能エネルギーの学習を通し、生徒たちも身近な所からできることをしていきたいと考えていることがわかります。

寄付者へのメッセージ

この度は高校生に海外で語学や異文化を体験をする機会を与えていただきまして、本当にありがとうございました。心より感謝申し上げます。実際に英語圏の国を訪れることによって、コミュニケーションの道具としての英語の必要性や実際に使って通じる喜びも実感できたようです。今後、国際交流発表会等を通して研修の成果を校内で発表することで、研修に参加しなかった生徒にも伝え、本校の国際理解教育がさらに向上する一助としたいと思います。

（第８号様式　県教育委員会ホームページ掲載用）

「海外ホームステイ研修支援事業」実施報告書

県立会津学鳳高等学校

実施期間・参加人数・滞在都市・現地交流校について

2019 年 12 月 22 日～12 月 26 日までの５日間、2 年生 28 名が台湾の新竹市にある国立清華大学の寮に滞在しながら、台北市立建国高級中学と交流しました。

期間中は清華大学や放射光施設研究所での科学技術に関する研修や自然公園での自然環境保全に関する研修、様々な歴史的建造物や故宮博物院での歴史・文化を学ぶ研修を行いました。

▲　大学教授によるエネルギーに関する講義の様子

実施概要について

《国立清華大学研修》

現地職員の案内のもと、原子力を活用した施設および技術の説明を受けました。また、大学教授による再生可能エネルギーに関する講義を受講し、ディスカッションしました。

《建国高級中学交流研修》

台湾最古の公立高校で様々な交流をしました。現地学生の温かな歓迎のもと、英語の授業への参加やランチ交流、校内ツアーなどを経験しました。また、プレゼンテーション発表を行い、互いの国の歴史や文化、現状、研究課題など様々な点で理解を深めました。

▲　本校生徒による英語プレゼンテーション

《自然環境や科学技術、歴史・文化を学ぶ研修》

その他、関渡自然公園や放射光施設研究所（ＮＳＲＲＣ）、故宮博物院、忠烈祠、台北１０１、士林夜市、龍山寺、中正紀念堂などを見学し、台湾の科学や文化について体感しました。

福島の現状発信や現地におけるエネルギー学習について

清華大学では大学教授３名と大学生３名に対して、福島の復興の現状や廃炉、再生可能エネルギーについてのプレゼンテーションを行いました。大学教授から多くの質問が投げかけられ、活発なディスカッションとなりました。建国高級中学においても、およそ５０名の学生に対して発表を行い、福島の復興とこれからについて強く発信することができました。また、清華大学では大学教授の再生可能エネルギーに関する講義を受け、熱心に耳を傾けました。

実施後の成果について

研修全日程をとおして英語をメインとして生活し、生徒一人一人が英語力を向上させました。一方で、高校生との交流で英語力不足を痛感し、課題が見つかりました。また、今後の目標などを語り合い、互いに切磋琢磨する関係も築くことができました。研修後は多くの生徒が“参加してとても勉強になった”“これから将来の目標に向かって頑張りたい”と話し、充実した研修にすることができました。

寄付者へのメッセージ

上記のとおり、ご寄付いただきました皆様のおかげで、生徒の夢や目標が膨らみ、今後の人生の活力となる研修を実施することができました。心よりお礼申し上げます。